

hendrix

magazine

vol.1

完全復活、独占インタビュー
pigstyが帰ってくる！

最新ライブレポート
GIMBACK LOVE LUNCH

第二回
dainikai



LIVethe破廉恥



(有) 一徹工務店

「ピロシ、中国へ行く」

URL: <http://www.age.ne.jp/x/cotton/cafe/>

MAIL: cotton@x.age.ne.jp

GimbackLoveLunch

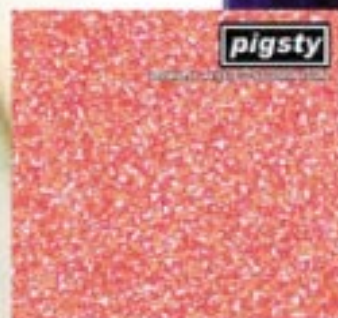
今夏 1st CDリリース予定

国産入りの予定!!

URL: <http://www8.ocn.ne.jp/~gimback/>

MAIL: gimback@axel.ocn.ne.jp

2004年7月17日(土)夕刻頃
鶴ヶ島HALLにて開催!!!



pigsty

新作「World Wide Frustration」7月リリース

URL: <http://www.goodies.co.jp/MusicStar/7065/>

MAIL: talbotu_hendin@hotmail.com

national handsome

HPにて「週刊あぼ蔵」好評連載中

URL: <http://popup8.tok2.com/home2/handredsumson/>

MAIL: naturalbornrocker1000000@hotmail.com

ticket 500円 / drink別

詳細 [url:http://www9.ocn.ne.jp/~gimback/](http://www9.ocn.ne.jp/~gimback/)

[mail:gimback@axel.ocn.ne.jp](mailto:gimback@axel.ocn.ne.jp)

WORLD WIDE FRUSTRATION

2004/07/01 on sale!!



ビグスティ オフィシャルサイト

<http://www.geocities.co.jp/MusicStar/7065/>



interview

伊藤 鉄平

from pigsty

ドラム脱退やメンバーの就職などにより何度も解散の危機にさらされてきた pigsty が待望の新曲を発表した。その名も「World Wide Frustration」。pigstyらしいさわやかなギターポップに仕上がっている。今日はボーカルの伊藤氏を招き、新曲発表までのいきさつ、レコーディングの様子、新メンバー・マツコの加入などについて熱く語ってもらった。

取材・写真：タカダユウゾウ

ROCKでもROLLでもねえ。
HIPでもHOPでもねえ。
もちろんFUCKでもねえ。
全てはPOPになっていくんだ。

もう単なるメガネバンドじゃないよ、ピグスティは。

● まずは、ピグスティを知らない人に簡単な紹介をお願いします。

伊藤 えーとね、そうだね。何言えばいいんだろ？ピグスティは大学のサークルで結成された星の数ほどあるバンドのひとつで、それからもう5年くらいやってんのかな？

● 当時はどんな音楽をやっていたんですか？

伊藤 はじめはね、A I Rのコピーバンドだったんだよね。あとオアシスとかウィーザーとか。パワーポップとかブリットポップとかいう類のをやってたよ。

● なるほど。ピグスティらしいですね。

伊藤 そうそう。そのころからもうあんまり音楽の趣味も変わってないし。で、しばらくやってたらもうコピーしたい曲もなくなっちゃって。しょうがなく曲作り始めたのがその2年後くらいかな。その間にメンバーチェンジとか活動休止とかちょこちょこ事件もあったけど、どれも大したことじゃないよ。彼女に振られたとか、彼氏とケンカしたとか。そんなもん。で、なんだかんだで現在に至る。って感じでどう？

● 完璧です(笑)。では新曲について聞かせてください。私も聴かせてもらいましたが、ピグスティらしいポップな曲に仕上がりましたね。

伊藤 そうだね。

● 今作はポップなものにしようと曲作りの段階で考えていたんですか？

伊藤 さあ、どうかな。全部ユウゾウ(ギター)

が作ってきたモンだから詳しくはわからないけど、こんな曲がメンバーみんな好きだからね。自然とこうなるんだよ。

● タイトルの意味は？

伊藤 それもよくわからないな。でもたぶん意味なんてないと思うよ。今までの曲もそうだったし。

● 初めてユウゾウさんがこの曲を持って来たときはどんな印象を受けましたか？

伊藤 うーん。覚えてないなあ。確かもつと全然違う感じの曲だったんだけど、リハスタでみんなで適当に合わせてたら、だんだんあんな感じになっていったんじゃないかな。違っかなあ。で、それを元にまたユウゾウが曲の構成とかを次の練習までに作ってきて。そんときアイツは、これぞピグスティだ！ってはいでたよ。今やってていけば楽しい曲だね、コレは。

● そうですか。レコーディング自体はいつ頃から始まったんですか？ 順調でしたか？

伊藤 うーん。いつかな？ 3月のはじめくらいかな？ 前からやろうやろうとはいってたんだけだね。やっぱりさ、みんなサラリーマンだからね。時間をなかなか合わせられなかったってのはあったね。でも、作業自体は順調だったんじゃないかな。リズム隊から順番に録ってって、その辺の録音は全部ユウゾウがやって、あれこれ機材をスタジオに持ってきてたけど、俺にはよくわかんかったな。なんかアイツはカネ相当使ったらしいよ、機材に。でもレコーディングのスケジュールとかもユウゾウが管理してくれたし、ほかのメンバーは音楽だけに集中することができたね。アイツはプロデューサー兼エンジニア兼ローディー兼マネージャーだった

たかな。ギターは合間にちょこっと弾いてた感じ(笑)

● そういえば、コニシさんは出張でほとんど日本にいなかったそうですね。

伊藤 そうなんだよ。いまもポリビアだって。あのころは2週間に一度こつちに帰ってきてたんだよ。

● それはたいへんですね(笑)

伊藤 そう、困ったもんだよ。

● 歌詞が全て英語ですが、日本語で歌うのと比べて大変でしたか？

伊藤 たいへんだったよ。だって俺日本人ですもの。発音とかさ、絶対あつてないんだよ。意味もあんまりわからないしさ。まあ、もともと歌詞に意味を持たせたこともあんまりなかったからいいんだけどさ。

● ではなぜ英語詞に？

伊藤 うーん、そのほうがリズムにのりやすかったんじゃないかな。それもユウゾウに聞かなきゃわからないわ。

もともと歌詞に意味なんてないんだよ。きつと。

● そうですか。では新メンバーのマツコさんの加入について聞かせてください。

伊藤 うん。それも実はあんまり覚えてないんだけどさあ。ピグスティってもともと大学のサークルで結成されたんだけど、マツコはそのサークルの後輩なんだよね。だから昔から知ってはいただけで。でね、最近のピグスティはギターポップにこだわらずにいろいろやるようになってきて、「あー、ここでピアノとか欲しいね」とか「チープなシンセ音が！」って状況が増えてきてね。こりゃだれかメンバーいれるしかないねってことになって。でもさ、キーボードの人でかっこいい人ってあんまりないんだよ。なんでだろうね。そんでね、「あつ、マツコがいるじゃん」ってね。マツコの使ってるシンセが真っ白でかっこよかったのよ。あんなの使ってる人いないよ、ほんと。そんで一緒にやらないって声をかけたのよ。

● マツコさんはすぐにメンバーになじみましたか？

伊藤 初めて一緒にスタジオ入ったときは大丈夫

か？って思ったけど、やっぱりマツコが入って一気に音楽性つついか、なんつうの、広がったよね。うん、まあ、これからじゃない？新生ピグステイは。マツコはかなりいい仕事してくれてるよ。バンドのルックスもかなりよくなったよね。華やかになった。もう単なるメガネバンドじゃないよ、ピグステイは。

● そうですね。頑張ってください。

伊藤 おう。言われなくても頑張るよ。

● 今回のレコーディングは多数のゲストの方も参加していますよね（ジンバックラブランチのトミさんがコーラス、tkがギターとコーラスで参加）。それから名曲20・APRIELをロニーさんがリミックスしていますね。その辺の経緯を。

伊藤 そうそう。ほんとありがたいよね。これはね、みんなで朝霞台の飲み屋で飲んでるときにね、レコーディングするんだけどなんかやってくれない？ってきいたらさ、やるやって。半分勢いで。そしたらほんとにやってくれましたのよ。tkなんか飲んだ次の日に頼んでもいないのにCDジャケットのデザインを作ってくれて送ってくれて。びっくりしたよ。

● では次に2曲目の「休日ホリデイ」ですが、ずいぶん洒落たタイトルですね。

伊藤 うん。未だにこのタイトルでいいのか？って思うよ（笑）

● この曲は今までピグステイにはなかった感じですね。

伊藤 この曲はもうマツコがいたからできた曲だね。曲自体はマツコが入る前からあったんだけどね。ユウゾウがね、ボサノバギターの教則本を図書館で借りてきて、そこに書いてあったコード進行をそのままパクってつくったんだって。で、マツコのミュージンでシンセ音入れたら3倍カッコよくなった。

● 7分を超える大作ですが、こんなに長い曲もはじめてですね。

伊藤 うん。単に終わり方が思いつかなくてダラダラやっちゃっただけなんだけど。でも、そんなに長いとも思わないけど。リスナーはどうなんだろう。

● 長いんじゃないですかね。

伊藤 あ、やっぱそう？じゃあ、長いってことでいいや。なんだかんだ言っても、まあ、やっぱり難しかったわ。いままでやったことない感じの曲だから。ワールドワイドフラストレーションはさ、ギターでガツンとイエーイ・ザツライ！って勢いでいけばそれなりに聴こえるけどさ、休日ホリデイはそういうわけにはいかないみたいで。いまだにちゃんと演奏できないし。ライブが怖いよ。なんとかだましだましアレンジしたって感じかな。正直まだ良くできるんじゃないかと思う。こんなことリリース前に言っちゃいけないんだろうけど。

● 前半と後半では全く違った感じになりましたね。

伊藤 もともと違う曲だったのを無理やりくつつけたんだよ。「休日ホリデイ」ってタイトルは前半のボサノバっぽい所のイメージだけでつけてるよね（笑）。

正直まだ良くできてると思う。こんなこと言っちゃいけないんだろうけど。

● こちらは日本語の歌詞ですが、歌いやすいですか？

伊藤 歌にくい。キーが高い。何度も取り直したよ。ユウゾウが厳しいんだよね。リズムがずれてるとか、ピッチが微妙だとか。古西もぶーぶー言ってたよ。何なんだアイツはって。

● （笑）。ところでRob-n-murさんのdu Appleをまだ聴かせてもらってないんですが？完成が遅れているんでしょうか？

伊藤 ああ、それは俺もまだ聴いてないんだよね。まだノリさん（Rob-n-mur）とユウゾウしか聴いたことないんじゃないかな。いや、ユウゾウも聴いてないって言ってたかな？もう完成はしているらしいんだけど。発売日までは誰にも聴かせないみたい。メンバーくらいには聴かせて欲しいよね。まったく。これはホント楽しみだよ。一体どんな風にくれちゃってるんだろうね、ノリさんは。うー

ん、気になる、気になる。噂では、リミックスっていうよりはもうノリさんオリジナルと言ってもいいくらいなんだって。

● それは楽しみですね。

伊藤 うん。楽しみにしてて。あの人は天才だから。

● では最後に今後のピグステイについて聞かせてください。

伊藤 うーん。どうだろうね。とりあえずライブだよな。7月に破廉恥ライブ（ジンバックラブランチのトミさんが主催するライブ）があるし。「ワールド・ワイド・フラストレーション・ツアー」とかやりたいね。時間的にむりだけど。

● アルバムを作る予定はないのですか？

伊藤 それは考えてるよ。ただね、曲数がまだ足りなくて。アルバムっていったらやっぱり10曲以上でしょ？まず曲作んなきゃね。アルバム製作はそれからだから来年になっちゃうかもね。

● それは残念ですね。これからの音楽的な方向性はどうでしょうか？

伊藤 それはもうそんなに変わらないと思うよ。休日ホリデイが今までと違う感じだといっても基本的な部分では、例えばメロディーとかはすごいポップだともうし、その辺は今までと変わってないでしょ？マツコが入っているいろいろやりたいこともあるけど、音楽性が変わることはないよ。だからこれまで通り、適当に曲作って、適当にライブやって楽しんでやっていくつもり。適当っていいも手抜いてやるわけじゃないよ。適度に無理せずってことね。そのうち余裕ができたら追い越しライブ（怪傑ヘンドリックス主催のライブ）もまたやりたいね。

● それはいつ頃になりそうですか？

伊藤 どうか。最近ユウゾウがあんまりやる気ないからなあ。今年中にはやるんじゃないかな。そのへんの情報は怪傑ヘンドリックスのサイトに載せていくとおもうんで。ちよくちよくチェックしてみて。まあ、のんびりやっていきますよ、ピグステイは。



伊藤 鉄平

1980年にpigstyのボーカルとして生まれる。大学在籍時にドレッドヘアにするが、あまりの不評に2ヵ月で断念したとかしないとか。現在はサラリーマンで一定の収入を保ちつつ、どんな役でも器用にこなす舞台俳優を目指しているとかいないとか。



World Wide Frustration

- ①World Wide Frustration
- ②休日ホリデイ
- ③20.Aplil(nor-imur mix)

Profile

2000 年くらいに某大学の軽音サークルで結成。

メンバーは伊藤鉄平 (Vo)、タカダユウゾウ (gt)、古西敏秀 (ba)、スニフ (Dr)、マツコ (key)。

<http://www.geocities.co.jp/MusicStar/7065/>



GIMBACK LOVE LUNCH

2004/4/10 高円寺 RITZ



SET LIST

1. Get Away
2. Yeah!
3. Loose Mind
4. Lunch
5. 60
6. Sun Set
7. Loop Loop Loop
8. Please Let Me Down

ジンバックラブランチとの付き合いはもうどれくらいになるだろうか。

いや、そんな長くもないかな。

ボーカルのトミさんとミッシェルガンエレファントのコピーバンドをやっていたのがまるで昨日のことのような気がするし、もう何年も前のことのような気がする。実際にはどうやら3年くらい前らしい。

あのころから僕らは変わることができたのだろうか。少しは大人になったのだろうか。それともちっとも変わっていないのだろうか。

変わることが正しいのか、それとも正しくないことなのか。それは誰にもわからない。

ただひとつ分かることがあるとすれば、それは目の前にはジンバックがいて、爆音でドラムが、ベースが、ギターが鳴り響いているということ。

今も昔も変わらず、ここではロックンロールが騒いでいるのだ。

オレはそれを見て、聴いて、感じて、遠い昔の初恋を思い出し、そしてほんのちよっと涙するのだ。

ああ、やっぱりジンバックは何もかわっていなかった。そうだ。そうだったのだ。やっぱりオレはちっとも変わっていないなかったのだ。そう、トミサンに誘われた川越のリハスタで、初めてマキシマルでギターを鳴らしたあの時から。俺は何一つ変わっていなかったのだ。

2004年4月10日、場所は高円寺、RITZという名のライブハウスで、

ジンバックよ、 何処へ行く

2004年4月10日
新高円寺RITZ

ジンバックラブランチ

ボクはそんなことを思っていたのだ。そんなことは露知らず、ジンバックは淡々と、無愛想なMCを挟みつつ、演奏を続けていく。

ステージでの彼らは素敵だ。ボクは常々思っている。

駅前でアコギを弾いている貧乏臭い人達よ。男ならステージに立て。小銭を恵んでもらって喜んで、それでいいのかと。輝かしいステージにこそ男の居場所はあるのだ。

ジンバックを見よ。

彼らは今日も堂々と、たくましく、輝かしい光の中で叫んでいる。

ああ、決してかなわない夢が、決して許されない嘘が、決して結ばれない恋が、今日もどこかで溺れているのだ。現在作中中と言われているジンバックのCDが楽しみだ。

GIMBACK LOVE LUNCH

ジンバック・ラブ・ランチ。

富所義之 (Vo,Gt)、クニオ (ba)、ジュン (Dr) の三人組。

グランジ、オルタナなど世間では言われて



いるのかいないのか知りませんが、とにかくライブみれば全て納得のライブバンド。

Disk REVIEW

compact disk digital audio

CDを聴くのが凄く楽しみだ



world wide frustration
pigsty
2004/07/01

レコーディングに参加させてもらったことから、デモ音源を数バージョン聴かせてもらっていたのだが、段階的に聴くこともとても面白かった。

一番最初に聴いた音源はユウゾウがボーカルをとっていて、「これ、いいじゃん」なんて思っていたのだけど、鉄平のボーカルが入ると曲がビシッと締まる。さらに、最新版のWorld Wide Frustrationを聴いてみると、キーボードが録音されていて、ポップ感が増しており、グッと良くなっている。録音面でのユウゾウの貢献度は大きい。特に、ドラムに立体感が出ていて聴いていて心地よい。

ゲスト参加のB.B. Kingはいつも凄い事をやってくれるので、今度はどう驚かせられるのやら。

CDを聴くのが凄く楽しみだ。

※今回のレコーディングに関して、古西は出張ばかり行っていたようで影が薄い。くじけるな、古西。

(tk)

4人がひとつの音の塊になり溶けていく感じがたまらない。



Washing Machine
Sonic Youth
1995/09/26

ソニック・ユース（以下SY）の1995年に発表された10作目に当たる作品。

カート・コバーンの事件の後の作品であり、サーストンが父親に、キムが母親になった後の作品。

このアルバム以降、カートのことが歌詞の中にチラつくようになる。

そして、この頃からキムがベースを弾くことが減り、このアルバムでもほとんど（全部？）の曲がギター3本とドラムという構成で演奏されている。

前作まではノリの良い曲が多かったけど、以前のSYと比べると、とても落ち着いた雰囲気があるのだが、やはりSYの音。曲の流れがとても素晴らしく、最後まで熱い演奏を維持してラストまで一気に突っ走る。

4人がひとつの音の塊になり溶けていく感じがたまらない。

(tk)

この人について、全く情報を持っていない



Ambient1
Music for Airports
Brian Eno
1987/01/05

僕はこの人について、全く情報を持っていないので、このCDを買うきっかけとなった、Amazon.comのディスク・レビューの一部分を転載する。手抜きアンド無断転載である。

『イーノによる「ディスクリット・ミュージック」の概念は、極めて小さな音量で作用し、部屋の雰囲気をはのりと彩る音楽である。本作の長時間のトラックは、ほんの少しずつ徐々に変化し展開することで、リスナーの注意を極度に引くことを拒否している。

けれども、だからといって意識的に聴かれることを意図していないわけでない。

この音楽が意図しているのは、音楽を対位法で響かせることで、移りゆく音に鮮やかな軌跡を描かせたり、さらに言えば、リスナーにイメージを呼び起こさせることなのだ。』

(tk)

誉め過ぎか? いや、そんなことはない



world wide frustration
pigsty
2004/07/01

初めてPIGSTYと出会ったのは、寒い冬の繁華街。少し軽そうに見えたから、妙に真面目な口調で声かけた。PIGSTYは少し見抜いてた、笑いながら。

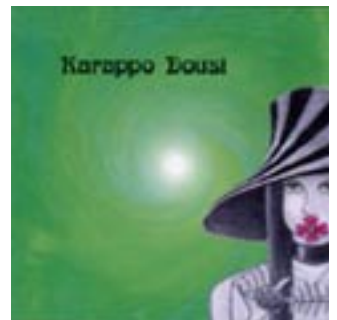
前作の1st MDから、約3年。もはや説明不要のPIGSTYの新作。

1曲目は、LIVEでもお馴染み、前作の流れを汲むポップチューン。自分の好きなアーティストが久しぶりに出した新作を聴いて、昔と変わってなくて、おかしな!と抱きしめたいような感じ。もう、まさにそれ。でも困ったことに、PIGSTYは抱きしめたいような様なメンバーはいないので、とりあえず一人で喜んでおく事にする。そして、2曲目「休日ホリデイ」。この曲は約3年の空白を埋めてくれるような、かつ、前作では無かったと言ったら失礼かもしれないけど、そんな新しい感じを垣間見ることが出来る曲だと思う。特に何と言っても、テッペーの声。すごく暖かい。照れる言い方をすると、包み込むような感じがある。何かを。何かは分からないけど、何かを。誉め過ぎか? いや、そんな事はない。じっくり聴いて欲しい。3曲目は、僕がPIGSTYの中で一番好きな曲「20 April」。not in me。この曲がどうなったのか、まだ聴いていないのでとても楽しみだ。

今度、PIGSTYに会ったら、真っ先にコニシを「おかえり!」と抱きしめてやろう。そしてコニシ節を喰らって、喜びを倍増させるんだ。

(場所)

いつのまにか、なべじは僕のアイドルになっていた



からっぽ同士
Slunky Side
1999/10/25

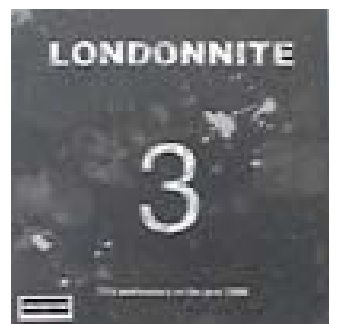
突き刺さるような鋭いファズギターにジミヘンブルース、それを巻き込むリズム隊のグルーブ、外見はもう2004年なのに3人とも70年代、やっぱりいつもパンタロンで、決して渋谷じゃなくて吉祥寺で、新宿じゃなくて高円寺や下北沢が似合っていて、ヴォーカルの名前は「なべじ」って言うってなんだかださくて、サイケデリックブルースなんて呼ばれてるんだけど、でも、どこかにガレージの匂いがあるから、勝手にガレージサイケブルースって呼んでみたりして、おかしないいじゃん、なんて微笑んでみたり。

歌詞はダメな事ばかりで、訴える事なんて何も無く、いつも「僕」の事ばかり、「髪は伸ばしてるんじやなくて、切ってないだけの事」で、「僕は分かってないんじやなくて、きっと忘れてるだけの事」で、メロディに乗って韻を踏む言葉の使い方が絶妙で、口ずさみたいんだけど、口ずさむにしてはちょっと暗くて寂しくなる。

そういえば、タワレコの視聴コーナーで見つけて、初めて聴いた時、あまりの衝撃で脳天が揺れて、心の臓への血流が激しくなって、瞳孔が開き、目は血走って、卒倒しそうになりながらレジに向かおうと思ったんだけど、数分前に血迷ってフィマンチューを買ってしまったが為に、僕にはお金が残って無い事を思い出して、泣きながらCDを棚に戻した。そして、やっと手に入れて、聴いていくうちに、いつのまにか、なべじは僕のアイドルになっていた。

(場所)

かっこいいバンドだけを集めた、ただそれだけのレコード



LONDON NITE 3
V.A
2000/06/22

コンセプトなんて一切無し、UKもUSもJapanもガレージもサイコビリーもロックンロールもニューウェイブもパンクも4つ打ちもポップも全部ひっくるめて、かっこいいバンドだけを集めた、ただそれだけのレコード。

フレイミングブルーズの典型的60年代サウンドから始まり、プリテンダーズ、ベルベットアンダーグラウンド、ジョニーサンダーズ、アリスクーパー、MAD3、ミッシェルガンエレファントという怒涛の流れ、極めつけにMC5!とプログレッション!と思ったら、ここで、ザ・スミスの極上ポップが流れてくる。うお、野菜大好きモリッシー! 本当に痺れます、この曲は。そして、懐かしのコークヘッドヒップスターズ、ラベラーズ、そして最後はレボルティングコックスの退廃ダンスミュージックで終了。こういうバンドがあるからこそ、今のロックンロール・リバイバルがあるんだ。ストロークスなんて聴いてる場合じゃないよ。

数行前でも興奮しましたが、このレコードの中で、最高なのが、プログレッションのサイコビリーの後に流れ出す、ザ・スミス「The Character Man」。ジョニーマーのギターが流れ出すと、なんだか戦争が終わって平和が訪れたような気分になる。そして、そこに、バラの花を持った変態モリッシーの声が浮かび上がってくる。モリッシーとジョニーマー、奇跡の融合。これが、ザ・スミス! んー、スミスのレビューでも良かったかなあ。

(場所)

hendrix magazine

★ 平成 16 年 7 月 1 日発行

★ 企画・編集

怪傑ヘンドリックス

<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/9374/>

kaiketsu_hendrix@hotmail.com

★ 表紙 伊藤鉄平

表紙・ロゴデザイン ユウゾウヘンドリックス

★ 製作協力

冨所義之(Gimback Love Lunch)

コンドーアキラ(national handsome)

t k

★ 写真撮影 ユウゾウヘンドリックス

Hendrix Record